

KLIS TODAY

No.
11

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

柿島大貴さん、カーリルAPIコンテストでライブラリアン賞

4年次柿島大貴さんは5月1日に開催されたカーリルAPIコンテストにおいて、作品「一語一絵（いちごいちえ）」で、ライブラリアン賞を受賞しました。柿島さんは昨年11月の国立情報学研究所CiNiiリニューアル記念ウェブAPIコンテストでも優秀賞（筆頭作者）を受賞しています。

「一語一絵」の開発にかけた思い

柿島 大貴

「一語一絵」は、育児記録と絵本検索を組み合わせたサービスです。育児記録からキーワードが自動的に抽出され、そのキーワードを絵本の検索に利用できます。「一語一絵」という名前には、ひとつの語（キーワード）から、1冊の絵本に出会って欲しいという思いを込めています。開発では、私は育児をしたことがないので、育児をする親の気持ちになって必要な機能を考えることに苦労しました。二度のコンテストを通じて、プログラミングが得意か苦手かということよりも、自分が夢中になれるアイデアを考えて、臆することなく挑戦することが大切だと感じました。



二度の受賞に喜ぶ柿島さん



「一語一絵」－三つの機能

「一語一絵」は携帯電話用Webサイトとして開発しました。このサイトには主に三つの機能を持たせました。

ひとつめは、育児記録機能です。例えば、「今日はたくさんカレーを食べたね♪」という記録ができます（図1の①参照）。この記録は、例えば、父親と母親で共有できます。

二つめは、絵本検索機能です。検索支援として、育児記録に関連したキーワードが記録から自動抽出されます。上の例では、「カレー」がおすすめキーワードとして表示されました（図1の②参照）。キーワードは絵本検索へのリンクとなっています（図2参照）。このように、育児記録と絵本検索を連動させることで、子どもの生活に密着した絵本を探すことができると考えています。

三つめは、メールで貸出し情報を提供する機能です。今回のコンテストを主催したカーリル（http://calil.jp）は、図書館の蔵書情報が取得可能なWeb API（ウェブ経由で他のサービスが持つ機能やデータを利用するためのインターフェース）を提供しています。「一語一絵」には、このWeb APIを利用した「メールでカーリル」という機能を組み込みました。利用する図書館を事前に登録しておくことで、メールによる貸出し情報の問い合わせができます（図3参照）。

カーリルのWeb APIを利用して情報を取得するのに、数秒で取得できる図書館もあれば、20秒以上必要な図書館もあります。その間、ユーザは待つこととなります。表示に20秒間かかるWebページより、20秒後に返ってくるメールなら、待ち時間に他の作業ができると考えて、メールを使った情報の提供を採用しました。

これら三つの機能によって「一語一絵」は、子どもが昼にカレーを食べた日の夜に、図書館で借りたカレーの絵本を子どもに読み聞かせるというような読書体験を可能とします。

知識情報・図書館学類では、図書館についてもプログラミングについても勉強できます。この恵まれた環境を活かして、「一語一絵」はできました。ぜひ、皆さんも図書館や本などを題材に楽しいアイデアを考えてみてください。

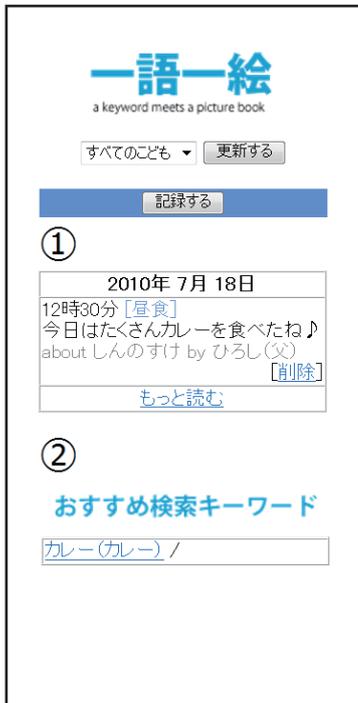


図1



図2

-- 書誌情報 --
 書名：ぼくちカレーライス
 著者 (author)：つちだのぶこ
 出版者：佼成出版社
 出版年：2005-08
 ISBN：9784333021550
 画像：http://xxx.jp/xxx.bmp

-- 貸出情報 --
 ●茨城県つくば市
 [所蔵あり]
 ★つくば市立中央図書館
 →貸出中

図3 メールの返信例

(かきしま・ひろたか 知識情報・図書館学類4年次)

私の学生時代とキャリア形成

このコーナーでは、自分のキャリア形成に学生生活がどのように役立ったかを、教員、事務職員、卒業生が書いていきます。在学生の皆さん、学生生活を計画的、有意義かつ楽しく過ごすのに、このコーナーを活かしてください。今回は、4月より「情報法」などの授業を担当している石井夏生利先生の体験談です。

難関資格（法曹資格）とその活かし方

石井 夏生利

学部時代と司法試験

私は、1992年4月に東京都立大学法学部に入学し、2年生までは普通の学生生活を送っていました。3年生の春に一念発起して司法試験を受ける決意をしました。理由は、今チャレンジしなければ二度と司法試験を受験する機会は巡ってこないという直感が働いたからです。

そこから生活はガラッと変わり、1日9時間は勉強し、予備校も掛け持ちしました。この時期は絶対合格したいという思いと同時に、合格しなければ無駄にお金と時間を費やすという不安もありました。友人との付き合いはほとんどなくなったうえに、1995年1月には神戸の実家が震災で被災しました。しかし、それを契機に母が上京し、当時同居していた兄と2人で私を精神的・経済的にサポートしてくれました。

司法試験（旧試験）は年1回しか実施されず、択一試験、論文試験、口述試験の三つ順々に受からないと、最終合格に至りません。例えば択一試験に受からないと、次の論文試験を受けられません。最終合格して司法修習生としての2年間の研修を経ると晴れて法曹資格を得ることとなり、裁判官、検察官、弁護士のいずれかの職に就くことができます。さて私は1996年の受験1年目は択一試験に不合格、大学を留年して受験した2年目に最終合格しました。択一試験後の論文試験は司法試験の天王山ですが、この年初めて受けることのできた論文試験は大失敗したと悔やんでいたので、合格が信じられませんでした。でも、間違いなく人生が開けたと思いました。受験を通じて学んだことは、漫然と勉強をしても効果が薄いことです。休憩をうまく取り入れ、毎日を規則正しく過ごすことが肝要だと実感しました。



模擬裁判で検事役（司法修習生時代）

法曹資格を得てから

大学卒業後は2年間の司法修習生生活を経て、1999年4月に弁護士となりました。弁護士業は、職務の性格上、多くの出費を伴い、休みも少なく、ストレスの大きい仕事です。私は、弁護士資格を別の仕事に活かしたいと考え始めました。弁護士は職業のひとつですし、法律事務所を辞めて別の職に変わることには未練はありませんでした。

思いついたのは企業法務です。偶然ユニ・チャームに応募したら採用されましたので、2001年8月から、企業内弁護士として働き始めました。2ヶ月後の10月には、弁護士登録を抹消して普通の法務部社員になりました。とはいえいつでも弁護士登録に戻すことはできます。そのせいか登録抹消後も、担当業務以外についても知っているであろうと頼られるなど、弁護士であったことへの期待だけが先行して苦勞することがありました。一方で、良いこともありました。それは、個人情報保護法案の遵守担当の仕事をしていたときに、ある同僚から「石井さんは大学院進学が向いているのではないか」と言われたことでした。その一言が私の背中を押してくれました。

社会人大学院生から研究職へ

私は会社を退職し、2003年4月に中央大学大学院に入学しました。社会人になってから再び学べる環境に身を置けたのは、何より嬉しいことでした。

博士前期課程は1年で修了し、2004年4月から後期課程に進学しました。まもなく情報セキュリティ大学院大学の助手として採用されることになり、会社を退職してその年の11月から働き始めました。大学院入学後1年半で研究の仕事に就くことができたのは、法曹資格を得て弁護士経験を有していたことが有利に働いたからでした。私は、助手の仕事をしつつ社会人大学院生として博士論文を書き上げ、2007年3月に中央大学から博士（法学）を授与されました。その後は情報セキュリティ大学院大学で准教授まで昇進し、今年の4月からは筑波大学でお世話になっています。



本学での授業風景

学生さんに伝えたいこと

私の場合、難関とされる資格を得つつ、「法律」という分野は共通するものの職業としては違う道を歩んでいます。資格をそのままの形では活かしていません。しかし振り返ってみると、研究生生活をそれなりに順調に送ってこられたのは、司法試験合格や弁護士経験があること、そしてその経験の中で得られた種々の教訓が、有形無形の「力」となって後押ししてくれたからだとも感じています。

資格試験にチャレンジすることは、難関であればあるほど、受からなかった場合のリスクを伴います。しかし、国家1種などを含めて難関とされる資格・採用試験に挑戦することは、その後の自信につながると思います。資格を取るかどうかは皆さん次第ですが、どんな人生を歩むにせよ、後悔しない選択をしてもらいたいと思います。

(いしい・かおり 知識情報・図書館学類 准教授)